

中山間地域

目指す姿（10年後）

- 中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材が、将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジを行っています。
- 地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が広がるとともに、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されています。
そこから、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながる様々な取組が広がっています。
- 多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジし、働き続けられる環境が整いつつあります。
- 医療・福祉、交通などの日常生活の安心に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、「スマート里山・里海」に向けたモデル的な取組が中山間地域全域で展開されています。とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム 500」の登録人数	345 人 (R1)	598 人 (R4)	680 人	1,000 人
中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	14 社 (R4)	290 社	320 社
デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	8 件 (R4)	10 件以上	10 件以上 〔普及展開〕 20 件以上
地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	—	1 市町 (R4)	19 市町	19 市町

主な取組

● 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大

- **元気さとやま応援プロジェクト**補助金活用件数 68 件

● 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

- **お試しオフィス**の整備 1市町
- **進出決定企業**数 11 社(累計 38 社)

● 中小企業の成長支援

- **外部人材活用セミナー**の開催回数 6回

● デジタル技術を活用した暮らしの向上

- **デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業**補助金活用件数 8件

● 持続可能な生活交通体系の構築

- デジタル技術を活用しながら、交通と生活サービスをひとつのサービスとして提供する「**広島型 MaaS**」の推進

● 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

- 現況1車線バス路線区間である、**一般国道375号**日下～引宇根工区(鳴瀬清流トンネル)供用開始[R5.3]

① 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 地域社会やコミュニティの中で、人と人がつながり、支え合う価値を大切にするため、地域における多世代のつながりや交流を促進するとともに、多様な主体が連携・協働して支え合える地域づくりを進めます。また、地域への愛着や誇りの醸成に向けて、地域において一歩前に踏み出すための様々なチャレンジを行っている人たちの活動を地域全体で後押しし、共感の輪を広げていきます。
- 地域づくりのフィールドワークやノウハウを学ぶ人材養成塾などを通じて、地域に根差した活動やコミュニティビジネスなどに取り組む人材の裾野を拡大し、中山間地域の将来を担うリーダーを育成します。
- 意欲ある実践者を中心とした人材プラットフォームを基盤として、里山・里海の豊かさを継続的に発信するとともに、その価値に共鳴し、地域と多様な形で関わる首都圏等の関係人口を拡大していくことにより、中山間地域を内外から支える人材の広域的なネットワークづくりを進めます。
- 人口減少下にあっても、地域の実情に応じて、主体性を発揮しながら地域づくりに参画できる最適なコミュニティのあり方を検討し、市町と連携して、日常生活の安心につながる持続可能な地域運営の仕組みづくりに取り組む地域を後押しします。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
チーム 500 の新規登録者数	目標	75 人	75 人	75 人	75 人	75 人
	実績	116 人	114 人			

【評価と課題】

- チーム 500 の新規登録者数については、中山間地域での起業や地域の課題解決についてのノウハウや手法を学ぶ人材養成塾、「ひろしま《ひと・夢》未来塾」の受講者等に対する登録の働きかけに加え、登録者からの働きかけなどによって新たな登録者が増える好循環が生じており、目標値を上回る登録者数となった。
- また、中山間地域に暮らす人々が地域の元気さを実感できる環境の創出に向け、チーム 500 登録者による新たな活動の立ち上げに対する支援に取り組んだ結果、地域を巻き込み、地域と協働した活動が各地で展開されている。
- 中山間地域の地域づくりに取り組む人材は着実に増えてきている中、引き続き、地域に根差した活動などに取り組む人材の裾野の拡大に向けた取組の充実・強化を図っていく必要がある。

【主な事業】・ ひろしま里山・人材力加速事業……………437 ページ
 ・ 元気さとやま応援プロジェクト……………439 ページ

【令和5年度の取組】

- 地域づくり活動への機運醸成を通じた人材の裾野の拡大、チーム 500 登録者による新たな取組の支援を引き続き進める。
- また、「ひろしま《ひと・夢》未来塾」の実施などを通じて、住民が抱える課題に対応できる人材を育成するなど、登録者の活動の質の向上を図る。

② 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や仕事も暮らしも充実させるワークスタイルへの関心の高まりを受け、里山ならではの環境やアクティビティを生かした生活の豊かさを先取りできる地域として、広く情報を発信します。
- 働く場所に捉われないIT関連企業を中心に、サテライトオフィスの誘致に取り組む市町を支援します。
- 中小企業の人材確保に向けて、即戦力となる県内外の専門人材(エンジニア等)とのマッチングの仕組みを構築します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
サテライトオフィス進出決定累計件数	目標	25 件	39 件	54 件	69 件	84 件
	実績	27 件	38 件			

【評価と課題】

- 新型コロナの行動制限により、令和3年度はオンラインの座談会方式による誘致交渉を実施したところ、踏み込んだ議論ができないまま交渉が終了した事例が多く発生し、令和4年度当初時点の交渉対象企業数が、前年度当初に比べ大きく減少した。このため令和4年度からは個別面談方式を採用したことにより、交渉対象企業数の増加につながったものの、令和4年度の累計進出決定企業数は目標 39 件に対し 38 件にとどまった。
- 企業へのアプローチ手法の変更が交渉対象企業数の回復につながっていったことから、引き続き、個別にアプローチする企業数を増やしていく必要がある。
- あわせて、進出検討企業から高いニーズがある、地元事業者との連携やデジタル人材の確保に適切に対処できるよう、市町との密接な連携、デジタル企業と専門人材をつなぐオンラインコミュニティを活用した専門人材の的確なマッチング等、企業ニーズに応じた対応により企業の進出確度を高める必要がある。

【主な事業】・ チャレンジ・里山ワーク拡大事業……………277 ページ

【令和5年度の取組】

- 本県に進出した企業の事例紹介をはじめ、サテライトオフィスの誘致に取り組む 12 市町の中山間地域での勤務環境や移住情報などの情報発信に努める。
- デジタル企業との直接の対話を継続し、交渉対象企業のニーズに対する具体の提案が行えるよう、サテライトオフィスの誘致に取り組む 12 市町との連携を強化していく。
- また、職業紹介の知識を有する民間事業者の力を取り入れながら、獲得したデジタル人材と進出を検討するデジタル企業とのマッチングにつなげていく。

③ 中小企業の成長支援

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 意欲ある事業者の新たな成長を後押しするため、多様なスキルや専門的な知見を生かして企業の課題解決に貢献しようとする首都圏等の副業・兼業人材と地域の事業者のマッチングの仕組みづくりに取り組む市町を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
副業・兼業人材の活用に向けたセミナー参加企業数	目標	83社	131社	131社	121社	111社
	実績	13社	135社			

【評価と課題】

- 令和4年度は、前年度までの低調な結果となった要因分析を行い、セミナーの内容の見直しをはじめ、開催手法についても、オンライン形式又はハイブリット形式を柔軟に取り入れるなど地域経済団体等の意向等も踏まえた改善を行った。
- セミナーの実施にあたっては、活用コストや手続面の詳細説明に加え、他県の制度活用企業関係者をオンラインで登壇させるなど、内容の充実を図ったほか、集客等について、関係市町や地域経済団体(商工会等)との連携協力(現地調整等を含む)を強化した結果、目標を上回る結果となった。
- セミナーを通じて、副業・兼業人材の活用による有用性は高い理解を得られていることから、今後は、具体的な活用件数の増加に向けた取組を強化していく必要がある。

【令和5年度の取組】

- 引き続き、市町や地域経済団体(商工会等)とのつながりを維持しつつ、商工会主催事業との連携等を行いながら、幅広く地域の企業のセミナー参加を促進していく。
- 令和5年度に創設した副業・兼業人材の活用促進策を通じて、人材活用企業数が増加していくよう、啓発セミナーとも連動させながら、中小企業の経営課題の解決に向けた支援に、関係市町と連携して取り組む。

④ デジタル技術を活用した暮らしの向上

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- ウイズ/アフターコロナ時代において、将来にわたって安心して暮らしを営むことができる環境を維持していくため、暮らし全般にわたる全体最適を目指す「スマート里山・里海」の実現に向け、日常生活に直結する様々な分野において、デジタル技術を活用した新たな生活サービスを導入しようとする市町を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
県の事業を通じ、デジタル技術を活用した課題解決に向けて取り組む件数	目標	4件	6件	8件	10件	10件以上
	実績	3件	8件			

【評価と課題】

- 令和4年度は、「デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業補助金」を活用し、5市町が新たな生活サービスを導入した。
- デジタル技術の活用に必要な市町職員のマンパワー及び専門知識の不足を補うために、課題分析や成果測定指標の設定等に係る伴走支援の実施や、市町におけるデジタル活用の機運の高まりなどが要因となり、目標を達成した。
- 今後は、これまでの先行事例の情報提供などを通じた、後発市町の事業化の後押しを行うとともに、横展開につながる助言等に取り組んでいく必要がある。

【主な事業】・ デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業……………447 ページ

【令和5年度の取組】

- デジタル技術の活用に必要な市町職員のマンパワー及び専門知識の不足を補うために、課題分析や成果測定指標の設定等に係る伴走支援を継続しつつ、令和4年度までに県の補助事業を活用していない11市町について、順次、技術的な助言等を行うことで、令和5年度中に新規2件(累計10件)の取組モデルの創出を図る。
- これまで実装が完了した課題解決の取組モデル(8件)を、他地域へ普及展開するとともに、共通課題を抱えている市町における共同実施を推進することで、「スマート里山・里海」の実現につなげていく。

⑤ 持続可能な生活交通体系の構築

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 地域の実情に応じた効率的で持続可能な交通体系の再編に取り組み、交通計画を策定する市町を交通会議の場などにおいて支援します。
- デジタル技術を活用した MaaS など、新たな交通サービスの導入に向けた取組や、住民自らが主体となって地域の移動を支えていくための取組への支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促します。
- 地域住民にとって必要不可欠な生活交通を維持・確保するため、国や市町と連携して、幹線等のバス路線や主要な航路等の運行等を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(累計)	目標	7件	11件	15件	19件	19件
	実績	7件	11件			

【評価と課題】

- 令和7年度の目標値19件に向け、令和4年度は広島型MaaS推進事業において、3件の調査・研究、2件の実証実験を行ったほか、庄原市において路線バスの貨客混載に取り組んだ結果、目標を達成した。
- 定額タクシーの実証実験を行った安芸太田町においては、高齢者が安心して便利に利用できることで、外出しやすくなったという意見があった一方で、あいのり等による行政負担の軽減等の課題も明らかになった。

【主な事業】・ 広島型 MaaS 推進事業……………279 ページ

【令和5年度の取組】

- 令和4年度に調査・研究を行った3市町(尾道市、北広島町、世羅町)においては、社会実装に向けた実証実験を行い、県内に展開できる広島型MaaSモデルの構築を進める。
- また、今年度新たに調査・研究を行う市町を募集し、令和5年度中に地域が主体となった社会実装計画を策定する。

⑥ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 中山間地域に住む人が、安全で快適な生活を享受できるよう、地域拠点と集落等の間を連絡するネットワークとなる基盤整備に取り組みます。
- バス路線1車線区間の解消に向けた取組など、地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
現況1車線バス路線区 間延長 (交通量 500 台/日 以上)	目標	36.8km	32.5km	32.3km	32.3km	31.2km
	実績	36.8km	32.7km			

【評価と課題】

- 「広島県道路整備計画 2021」に基づき、計画的に道路整備に取り組んでおり、一般国道375号日下～引宇根工区(鳴瀬清流トンネル)を供用開始し、現況1車線バス路線区間を解消することができた。一方で、令和4年度完成を見込んでいた事業において、地元調整等に時間を要し、工事の進捗に遅れが生じていることから、目標達成に至らなかった。

【主な事業】・ 道路改良費……………281 ページ

【令和5年度の取組】

- 生活交通であるバス路線において、狭隘区間を解消し、バス等の安全性・定時性を確保し、サービスの維持を図るため、引き続き、現況1車線バス路線区間の道路整備を推進する。